

令和元年9月11日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：斉藤、海老原、手嶋、今野

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより



150号

9月の月例会が開催されました

9月1日(日)に月例会が開催されました。気づけば旧村川別荘だよりも150号!これもひとえに皆様のご尽力の賜物です!この場を借りて担当一同お礼申し上げます。

竹内神社祭礼について

9月の14日～16日まで、布佐の竹内神社の祭礼が催されます。この祭礼が市の指定文化財に指定されるかもしれないということもあり、今回取り上げてみようと思います。

●祭りとは?

まずは、祭りとはどういうものか考えてみましょう。祭りの定義として、「年中行事であること」、「人々が集団で参加し、参加者が一定のルールで行動すること」、「人々の関心を集めるシンボルがあること」、「人々に非日常的な意識を作り出すこと」が挙げられます。また、祭りといっても村とまち、伝統的なまつりと新しいまつり、宗教的背景の有無など様々です。近年では商業的にはじまった祭りが神事に寄り添っていくというケースもあります(例:表参道のよさこい祭りなど)。ここでは「神」を戴く祭りについて考えてみましょう。

①神とは

神とはいったいどんなものなのでしょうか。恵比須様などは想像しやすいですが、例えば竹内神社の祭神であるアメノカグツチノミコトと言われて、その姿がイメージできるでしょうか。



↑イメージしやすい恵比須様

日本では鏡や剣など物の形をして顕れることもあります。また、そもそも神の容姿については神の姿を直接拝することを忌む伝承が多いため、イメージ



アメノカグツチノミコト…?

する必要がなかったということもあります。

②祭りの運営集団

祭りの運営には家、家族、地域社会、職能集団(狩人、木こり、漁師など)、特定の教義を共に信奉する人々(宗教的なもの)など様々な集団が関わります。祭りは集団行事のため、個人で行うものは個人的祈願となり、祭りとは言いません。

③祭りの流れ

神様を迎え、もてなし、送る。基本的にはこの3つが行われます。

まず、神様を迎える前に身を清めます(潔斎)。潔斎には積極的なもの(宮司に祈祷してもらう、神社などで手水舎から水を汲み手を清める)と消極的なもの(部屋に籠るなど、外界の「穢れ」から離れることで身を清める)があります。

次に、神様を迎えます(神迎え)。現在では神様は神殿や神棚にいますが、古来、神は「常在しない」と考えられていました。そのため祭りの際には臨時に神座を設けて神様を迎え、終了とともに元いた場所へお帰りいただいていた。

では、神様はどこにいたのでしょうか?以下の3つが挙げられます。

- イ. 高所や木の上から直接降りてくる(垂直降臨)
- ロ. 海からやってくる(水平来臨)
- ハ. 木や石、山や田に宿る

いずれもその地へ迎えに行き、神輿に乗せ祭りの場までお連れしていたのです。

お迎え後は、神様をもてなします。献饌(お供え物を供える)し、近侍(神様の近くに行く)・直会(献饌のものを神様と一緒にいただく)を行います。この後、願意の謹告(神様へのお願ひ)を行うのですが、この際、予言・託宣という形で神様からの言葉をいただくために踊りを踊ったり音楽を奏でたりすることもあり、これが地域の芸能として独立することもあります。

神様をもてなしたあと、地域をぐるっと練り

回り、もといた場所までお送りします(神送り)。

④祭りの機能

自分にとって利益のある神や、祈りの内容(願意)に応じて神をイメージし、それらの神と関わり続けることで、神に働きかけ、神の持つ力を自分の願いに有利な方に導くために行う行為(積極的・消極的にかかわらず)が祭りと言えます。

●竹内神社の祭礼

いよいよ今回の目玉、竹内神社の祭礼についてです。この祭礼はもともと9月14日から16日までの3日間と決まっていたのですが、近年では14日を含む3連休で行われています。今年は冒頭でも申し上げたとおり、元来の日程どおり14日～16日に開催されます。



広報あびこで

は享保年間に始まった、と言っていますが正確なところはわかっていません。ただ、地元の方々が祭りのルールを書き連ねている『祭礼協定書』には享保21年に神輿を新調したとあるので、この時には祭りを行っていたのは確かなようです(ただし神輿に関しても昭和11年に書かれた『布佐町史』には明治29年に新調とあるので、どの記述かが正しいかは不明です)。

◎竹内神社祭礼の概要

【基本情報】

- ・祭りは1丁目・2丁目・3丁目・大和町・上町の5町で行います(実際の住所とは異なります)。
- ・神輿を担ぐのはその年の当番町で(1年ごとに持ち回り)、御飯屋(神輿が一時的に休む飯宮)は当番町の敷地内に置きます。
- ・山車は各町ごとに出し(神輿を担いでいる間、当番町は山車を出せません)、山車の上で神楽やお囃子を行います。演目は各町ごとに異なります。
- ・御飯屋に神輿を安置している間、警護役を置きます。夜は寝ずの番です。

【初日】

神社で式典を行い、神様を神輿に遷します。神輿を担ぎ、約60段の急な石段を降りると(宮出し)、神輿を先頭に山車とともに町内を練り回ります(連合渡御)。夜になると、神輿は御飯屋に安置されます。

【2日目】

この日、神輿は出ません。山車が町内を巡ります。夜になると御飯屋の前に各町の山車が集まり、競争(競演)を行います。

【3日目】

神輿と山車で町内を練り回ります。夜にはナリタヤ駐車場で山車の競争(競演)を行い、その後神輿が山車を引き連れ竹内神社まで向かいます。神社に入る前に「丁跨ぎ」(国道から参道へ出たり入ったりする)を行い、1日目と同じ急な石段をのぼって境内に入り(宮入り)、しばらく境内を回った後神様を本殿へ戻します。

この祭礼は元来、神輿を担げるのは男性だけでした。しかし、昨年からの通常神輿が動かない2日目の山車の競争中に、子ども神輿を使った「女衆神輿」が始まりました。古くから伝統に則り続け祭りであっても、新しい風を取り入れて変わっていく部分もあるのですね。

今年の竹内神社の祭礼は、令和を記念して花火が特別にあがるそうです(80発超)!

ご都合が合う方は、ぜひ一度、勇壮な布佐のまつりにお出かけください!

今年の当番町(1丁目)が作ったホームページもご覧ください(^)

HP <https://fusasairei.wixsite.com/takeuchisairei>

連絡事項

- ・「竹灯籠の夕べ」について、お手伝いいただける方を募集します!シフト同様9月25日(水)までに文化・スポーツ課までご連絡ください。
- ・11月の月例会は1日(金)午後になります(シフト調整のみ)。詳しくは来月の月例会でお伝えします。
- ・12月の視察についての詳細は、来月の月例会でご連絡します。
- ・**名簿作成の同意書の提出**をお願いします。書類がお手元にない場合は、ご連絡ください。

次回は・・・

令和元年10月1日(火) 午前9時30分

から旧村川別荘新館にて月例会を行います。

どうぞよろしくお祈りいたします!